

日光ケミカルズ

独自亜鉛成分が国際学会で受賞
ヘアケア市場の競争軸を「被膜補修」から転換

日光ケミカルズは、独自成分「NKKOL」グリシン亜鉛コンプレックスによる毛髪と頭皮の複合ダメージ抑制に関する研究で、インド化粧品技術者会（Indian Society of Cosmetic Chemists, ISCC）主催の学術大会「ISCC Biennial Conference 2026」のポスター賞（特別賞）を受賞した。



高山俊輔研究員(左)、Catheleen Anne Naig Ysulat研究員

生体応答をコントロールするメカニズムを確立した。同大会での研究発表では、その有用性が多角的に実証された。高山俊輔研究員によるポスター発表では、紫外線や熱、ブリーチ処理によって引き起こされる毛髪の酸化ダメージ（カルボニル化）に対し、同成分が顕著な抑制効果を示した。さらに、

同社は、アミノ酸の一種であるグリシンと亜鉛を錯体形成させる技術でこの障壁を突破した。「NKKOL」グリシン亜鉛コンプレックスは、細胞への亜鉛の移行性を高める機能を持つ。これにより、細胞本来の機能を補完し、酸化ストレスなどの外的要因に対する境の恒常性を維持することがあった。アッシュン業界では他にも、「エイジレス」なアイテムの提案が広がっているという。ニースや価値観の多様化、環境変化への対応で、既存の枠組みを解体し、再構築していく脱構築的な商品開発・マーケティングが注目を集めている。

ファイントウデイ

男性肌の角層水分量が対人印象を左右
日本感性工学学会で優秀発表賞、
スキンケア価値を「即時の対人印象」に転換

ファイントウデイの研究員が、男性の肌における角層水分量が対人印象に与える影響を分析した研究で、第21回日本感性工学学会春季大会にて優秀発表賞を受賞した。同社の川上裕子研究員による発表「分析」は、実測データと印象評価を統合した設計の精度に加え、スキンケア価値を心理評価へ接続した点が評価された。

研究の焦点は、従来、向も確認され、肌表面構造の明度や色味以外の要因の「見た目の肌評価」か造と水分状態の間に負の相関が示された。この結果、研究では、角層水分量という生理指標が対人印象に与える影響が、肌の「見た目の若人印象をどこまで規定し」が必ずしも年齢ではの高さが肌表面の光学特性をを検証する点にある。肌の色ムラや凹凸と理可能な要因に左右され、いったん静的な視覚情報で、可能性を示すものだ。

第二段階では、肌状態データをもとに作成した男性被験者の顔部画像を、対人印象評価を裏付けている点に、測色条件を揃え、角層水分量のみが異なる画像ペアを抽出し、年代別に8枚を選定して「能力・信頼性」「温かさ・親しみ」「道徳性・品性」など見た目の変化で語る

「健康性」の4軸で行った分析の結果、角層水分量が高い肌は全ての評価軸で一貫して高いスコアを示した。特に「若々しい」の差は顕著で、水分量の違いが年齢印象に与える可能性が示された。同一の色調条件下で、角層水分量が低いほど角層の重層化が進む傾

差が生じている点は、肌膜形成による外側からの補修が中心だったが、今回の技術は細胞機能そのものへの介入を前提とする。原料競争の主戦場が「質感の演出」から「生体恒常性の設計」へ移行しつつある中、独自成分は次世代ヘアケアの競争軸を示す技術として注目されそうだ。

ぼかし時代

日記

H & B

私の

着古した下着が破けたのをきっかけに、ネットを探し始める。目に飛び込んできた「レース柄素材」のメンズ用下着。発売当時は大手メーカーの話題づくりと見ていたが、一定層のニーズを取り込み、定着化した。下着も「ジェンダーレス」でもらえば履いてみたい。父親の「父の目」が近づいているが、そんな男性は意外と多いのではないか。そもそも下着や靴下といった肌着類は買い替え時が難しい。その理由が昨今の物価高の影響であれば、多少聞

タンスを開ければ、キレイな状態の下着や靴下が並んでいる。にもかかわらず、気づけば同じ3〜4種を選んでいた。生地はくたくた、ゴムはよれよれで、替えが利かない何れスの進展である。フ